

佳作
兄弟熊

佐々木 敬太郎

雪やこんこ あられやこんこ

降つてはくすんく積り

山も野原も綿帽子かぶり

枯木のこらず花が咲く

皆さん、さうです。

きれいでせう。まつ白な綿のやうな雪が、緑の松の木の枝々にこんもりこ積つてゐますね。東のお山の上に大きいお日様がきら／＼出て来るさ、お山もきら／＼松の木もきら／＼まつ白にかゞやいてゐます。あつちのお山もまつ白、こつちのお山もまつ白、むかふのお山もまつ白でそのまた奥のお山もまつ白白の白んぼです。その白んぼお山の奥の奥の又すゝつ奥の白んぼお山に、まつ黒な洞穴が一つあります。まつ黒な洞穴の中へはいつてだん／＼奥の方へ行くまづ暗になつてその奥にまつ黒な熊の子が三匹クーン／＼／＼／＼おねんねしてゐます。お兄さんの熊の子がクーン／＼／＼おねんねしてゐるさそのそばにお姉さんの熊の子がクーン／＼／＼おねんねして又そのそばに弟のちび熊公がクーン／＼。三匹が丸くかたまつておねんねしてゐます。三匹の子供の熊の子の側にお母さんの親熊がグーン／＼／＼おねんねしてゐます。そのお側ではね、お父さんの大黒熊がグーン／＼／＼おねんねしてゐます。

何見てねんね
春の小川の夢見てねんね

ビ
三
ビ
三
ン
ノ

渡りました。

「おや、暖いなく。皆ごうした。起きたかく」三お父さん熊が申しました

こちび熊公が笑ひますこ

そしてみんなで

お手々つないで、お山を行けば

ニコニコお日様、ぼか／＼照つて

ここは雪消え 春の山

ご歌ひながらお山を下りて行きました。

「お父さん、お母さん。ほら／＼こつちには露の芽がたくさんあるよ。こつちへお出で」
こいつて／＼走つて行きます。

「おや／＼、あぶないつたら。あんな遠い所まで下りて行つてしまつた。仕方のない子だね」
お父さんもお母さんも露の芽をまつて食べ食べ谷の水を呑み／＼だん／＼下りて参りました。お空には春のお日様がこの楽しさうな熊さん達をに／＼して眺めてゐます。

谷間の水はチョロ／＼／＼流れて、あつちの方から来る水ミ、こつちの方から来る水ミ一緒になつてチャブ／＼／＼流れてゐます。そのチャブ／＼水が横の方から流れて来た水ミ一緒になつて、チャブ／＼／＼チャブ／＼／＼だん／＼多くなつて大きな／＼なお川になつてまゐります。ふさ其の川の中を見るミチャブ／＼／＼チャブミ泳いで行くお魚がありました。鮭です。

「やつ。お母ちゃん、僕あの鮭をまつてくるよ」ミちび熊公がチャブ／＼／＼川の中へ入つて行つて大きな鮭の背中を小さなお手々でチャブ／＼叩いたが鮭はちつとも驚きません。

「ちびさんは下手ね。あたしがこりませうよ」ミお姉さん熊がぼち／＼入つていつてボチャ／＼叩きましたが、それでも鮭はちつとも驚きません。

「やあ、みんな下手だね。僕がまつてやらうよ」

ミこんざはお兄さん熊がチャボ／＼／＼はいつていつてチャボンミ叩きましたがそれでも鮭はちつとも驚きません。

三匹の熊の子供さん達が残念さうに見てゐるミ今度はお母さん熊がチャボ／＼／＼はいつて行つてチャボンミ叩いたが鮭はちつとも驚きません。大きな脊びれを水の上に出して浅い川の中を

泳いでゐます。

今度はお父さんの大熊がバヂャ／＼バヂャ／＼はいつて行つて急に大きなお手々でバヂャンミ叩いたので、さすがの鮭もさう／＼動かなくなりました。

「萬歳ッ 萬歳ッ」

みんなお手々を叩いて喜びました。

「お父さんはお強いね」

ごお母さんが申しました。

「さあ、みんなで鮭をかついで歸りませう。おそくなるさ暗くなつて歩けませんからね」

ご申しましたので、三匹の子熊さん達はごつこいしよご鮭をかついで歩きました。

其の時、さつきから側の木の枝にごまつて見てゐた雀の子が三羽チュンチュンチュクチュンご笑つたので、ちび熊公は怒つてクーンご鼻をならしました。

そしてだん／＼お山の方へ登つて行きました。木の枝では三羽の雀がだまつて熊さん達を見てゐました。

その時、お山の麓の青い青い野原の路を幼稚園の子供さん達がお手々つないでごんごんごごんごはねて來ました。

「やあ、やあ、熊の子が行くぞ」

「あれ、あれ、熊の子だ熊の子だ」

「ご／＼へ行くんだらう」

「あ、金時さんの足柄山へ行くんだらうよ」

足柄山で 金時は

熊ごお角力ごりました。

熊はころりご負けました。

足柄山で金時は

お山の大將になりました。

ごお手々を叩いて喜びました。

熊のお父さん、お母さん、お兄さん、お姉さん、弟さんたちは、大きな鮭を肩にかついでばかり、春のお日様の照る山道をだん／＼登つて行きます。たのしい／＼お山のお家へかへつて行くのでせう。

フレーベル賞入選童謡

佳作 電信柱

若 宮 梅 子

一 頭に白いお帽子かぶり

ずらり／＼竝んだ電信柱

暑いお陽様照る夏も

冷い風の吹く冬も

いつもきれいに立つてゐる

二 頭に白いお帽子かぶり

ずらり／＼竝んだ電信柱

両手に雀をこまらせて

お隣同志せいくらべ